

2016年3月期決算

2016年5月9日
双日株式会社

目次

I. 中期経営計画2017～Challenge for Growth～の進捗

II. 2016年3月期決算実績および2017年3月期見通し

【補足資料1】セグメント情報

【補足資料2】決算実績サマリー

将来情報に関するご注意

資料に記載されている業績見通しは、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、業績を確約するものではありません。実際の業績等は、内外主要市場の経済状況や為替相場の変動など様々な要因により大きく異なる可能性があります。重要な変更事象等が発生した場合は、適時開示等にてお知らせします。

I. 中期経営計画2017～Challenge for Growth～の進捗

2016年3月期 サマリー

外部環境の変化により減損を計上するも、当期純利益は概ね見通しを達成

2016年3月期決算の概要

- 当期純利益* 365億円
- ROA 1.7%
- ROE 6.8%
- ネットDER 1.1倍
- 投融資実績 710億円
- 期末配当 4円 (予定)
(配当性向 27.4%)

(*) 当社株主帰属

2016年3月期 プラス要因

非資源事業における

- 自動車関連の新たな収益貢献と不採算事業撤退の効果
- 航空関連の事業領域の拡大
- 化学・肥料関連の収益基盤強化

2016年3月期 マイナス要因

- 資源市況の低迷

	期初前提	足元の市況 (2015年度4Q平均実績)
原油 (Brent)	US\$60/bbl	US\$35.2/bbl
石炭 (一般炭)	US\$68/t	US\$50.3/t

- 船舶市況の低迷



Copyright © Sojitz Corporation 2016

4

- 世界経済全体に不透明感高まる環境下であったが、2016年3月期は当期純利益400億円という計画に対して、90%を超える達成率となる365億円で着地。
- 非資源事業の安定的な収益貢献というプラス要素、資源・船舶市況の低迷というマイナス要素の双方の影響を受けた。

経営環境

		中期経営計画策定当初	2016年度
市況前提	原油 (Brent)	US\$60/bbl	US\$40/bbl
	石炭 (一般炭)	US\$68/t	US\$52/t
	為替	¥120/US\$	¥110/US\$
	金利 (Tibor)	0.2%	0.1%
環境分析		<ul style="list-style-type: none">● 米国： 緩やかに成長。利上げによる消費への影響、ドル高等の影響には注視が必要● アジア： 中国は構造改革、財政・金融政策を通じて安定成長へ。アセアン等新興国の成長は緩やかな回復を見込む● 日本： 緩やかな成長に留まる見込み	

- 足元では原油、石炭などの資源価格が大幅に上昇することは期待できず、為替は円高に振れている。
- 地域別では、米国経済は堅調な推移を期待するものの世界経済全体を牽引するには不十分とみる。
- 中国は、安定成長重視の政策は継続され、安定成長に移行。
- アセアン等の新興国は緩やかな経済回復を見込む。

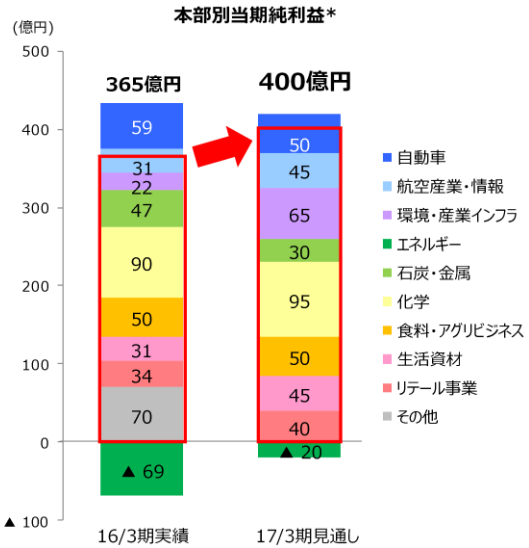
2017年3月期 見通し

経営成績

(億円)	16/3期 実績	17/3期 見通し
売上総利益	1,807	2,100
営業活動に係る利益	292	440
当期純利益*	365	400
ROA	1.7%	1.9%
ROE	6.8%	7.5%

財政状態

(億円)	16/3末 実績	17/3末 見通し
総資産	20,567	22,000
自己資本	5,203	5,450
自己資本比率	25.3%	24.8%
ネット有利子負債	5,716	6,300
ネットDER	1.1倍	1.2倍



(*) 当社株主帰属

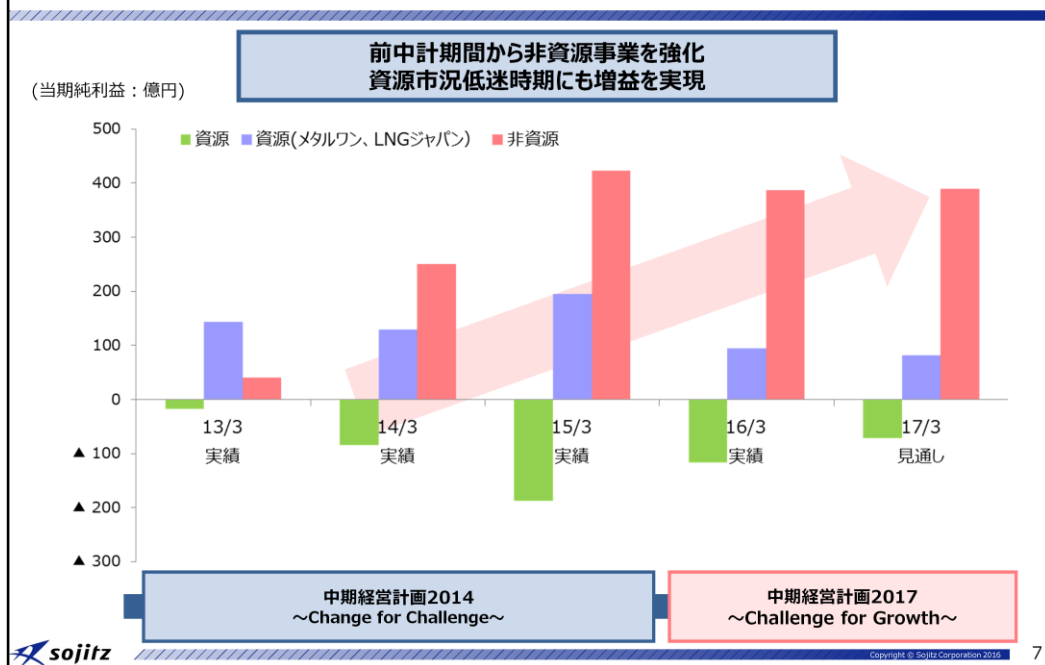


Copyright © Sojitz Corporation 2016

6

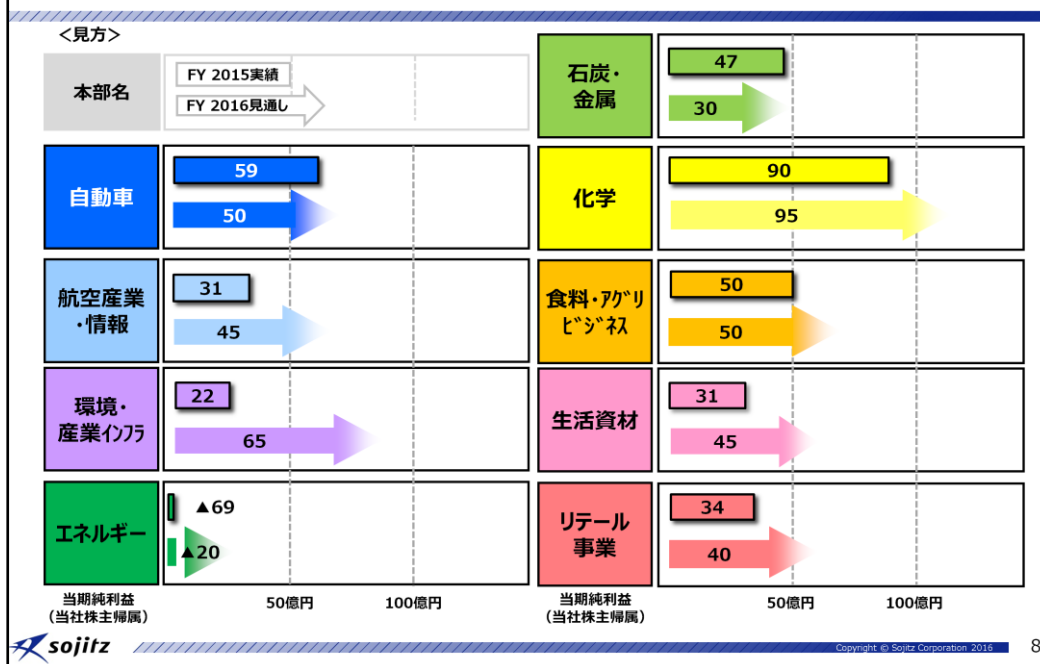
- 2017年3月期の当期純利益は、非資源事業にみる安定的な収益寄与を背景に、前期比35億円増益の400億円という見通し。
- ROAは1.9%、ROEは7.5%を見込んでおり、当社の目標としているROA2%、ROE8%に向かって着実に進捗していく計画。

資源 vs 非資源



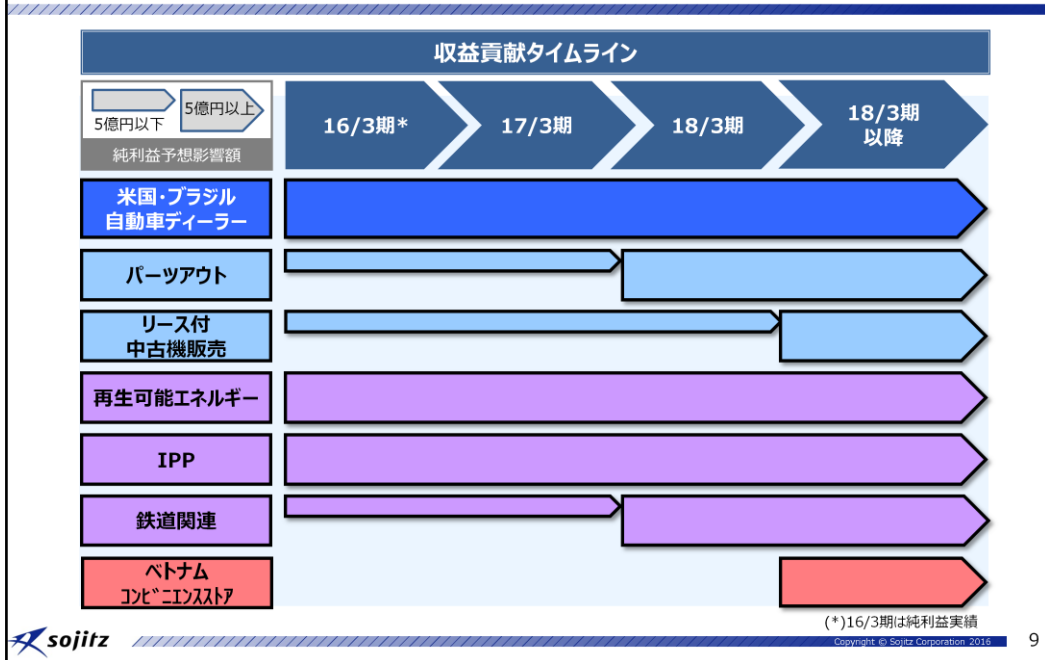
- 資源事業は資産入替を含めた再構築を進めている。
- メタルワン、LNGジャパンについては、安定した収益を計上してきた。足元ではそれぞれ事業環境悪化の影響を受けているものの、当社の主要事業として今後も取り組んでいく。
- 非資源については、前中期経営計画期間から引き続き強化を進め、収益基盤をより盤石なものとしていく。

50億円、100億円の収益の塊へ ～本部別当期純利益～



- 現行中計は、収益50億円、100億円の塊をつくっていくことを標榜。
- 自動車： ディストリビューター事業における成長地域での新たな展開や、ディーラー事業の更なる展開。
- 航空産業・情報： 民間航空機代理店事業で培った知見を元に、パーツアウト、中古機販売といった幅出し、更には空港運営事業に広げる。
- 環境・産業インフラ： 新興国のインフラ需要に対応すべく、IPP、交通インフラ、プラント事業に加え、再生可能エネルギーにも取り組む。
- 化学： 優良な顧客基盤と海外販売ネットワークを活用し、特にアジア・中国地域におけるグローバルトレードを拡大。
- 食料・アグリビジネス： 強みを持つ肥料事業の横展開に加え、穀物事業における収益安定化を図る。
- 生活資材： 繊維、建材を主とした収益の柱を安定させる。
- リテール事業： 工業団地事業に加え、東南アジアの伸び行く内需を取り込むべく、食品卸事業、コンビニエンスストア事業等に取り組む。
- 資源事業については、資産入替を進めながら、権益以外の分野への取組みを進めていく。

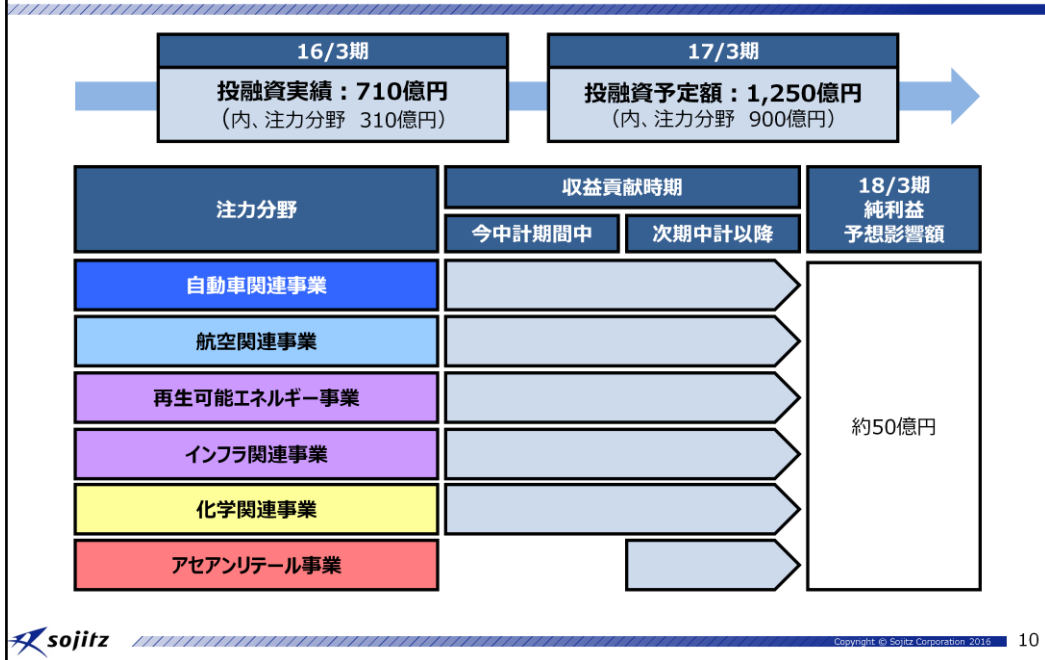
2016年3月期 主な投融資等の実績



9

- 非資源の強化をより意識しながら実行してきた投融資は、2016年3月期はディスバースベースで710億円。
- 米国自動車ディーラー事業は着実に拠点数を増やし、既に収益基盤として貢献。
- 当社が強みをもつ航空機関連では、パーツアウト、中古機関連事業に取り組み、事業領域の拡大が徐々に収益の厚みとなる。
- 再生可能エネルギー、IPP、鉄道といった環境・産業インフラ本部の案件についても、それぞれ安定的に収益貢献予定。
- ベトナムのコンビニエンスストア事業は、長期的な目線で取り組む。

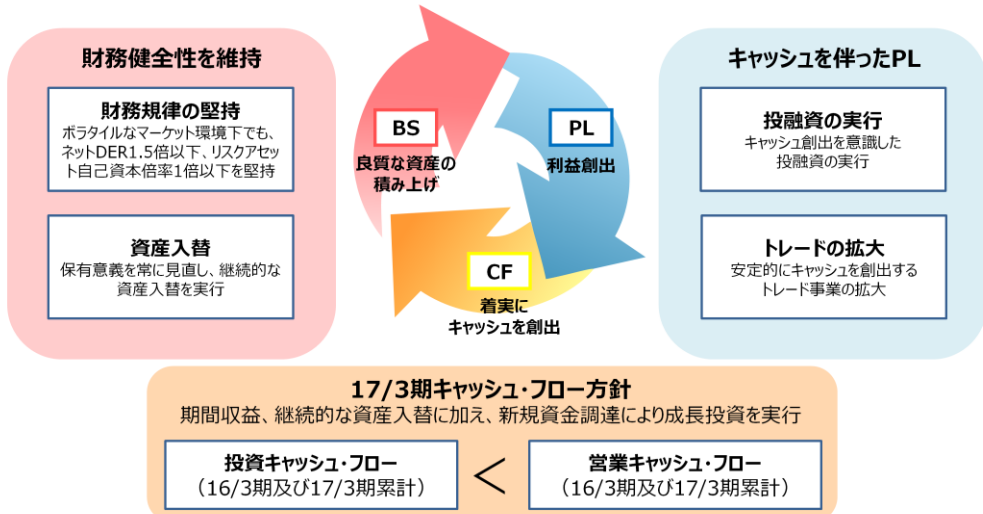
2017年3月期投融資の内訳とリターンイメージ



- 2017年3月期の投融資額は前期からの期ずれ案件も含め1,250億円の計画。
- 安定的な収益が期待できる再生可能エネルギー・インフラ関連や、当社の知見・強みを発揮しながら、機能の拡大やマーケットの拡張・獲得が可能となる事業を注力分野とし、これらを中心に経営資源を振り向けていく。
- 2016/3期、2017/3期の投融資額は合計1,960億円。その内、注力事業への投融資額は1,210億円で、現行中期経営計画期間中での収益貢献は、18/3期に50億円程度となり、本格的な収益貢献は次期中期経営計画以降になると見ている。

投資とキャッシュの考え方

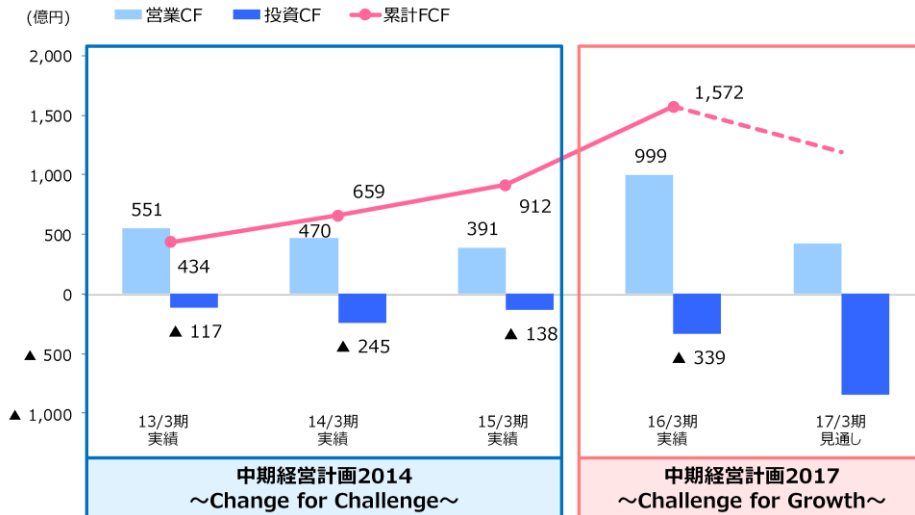
将来のキャッシュを創出するアセットを積み上げながら
フリー・キャッシュ・フローは16/3期及び17/3期累計で黒字を維持



- 投融資実行にあたり、キャッシュフローの考え方としては、収益基盤の拡大を目指す中で、「キャッシュを伴ったPL」でなければならないと考える。
- その考えに基づき、利益を創出しながら、着実にキャッシュを生み出し、更なる良質な資産を積み上げるといった、好循環サイクルを維持していく。
- 2017年3月期のフリー・キャッシュ・フローは支出が収入を上回ると想定しているが、2016年3月期と2017年3月期の累計ではフリー・キャッシュ・フローは黒字になる見込み。

中期経営計画2017 キャッシュ・フロー推移

前中計を含む一定期間のフリー・キャッシュ・フロー累計で黒字を維持

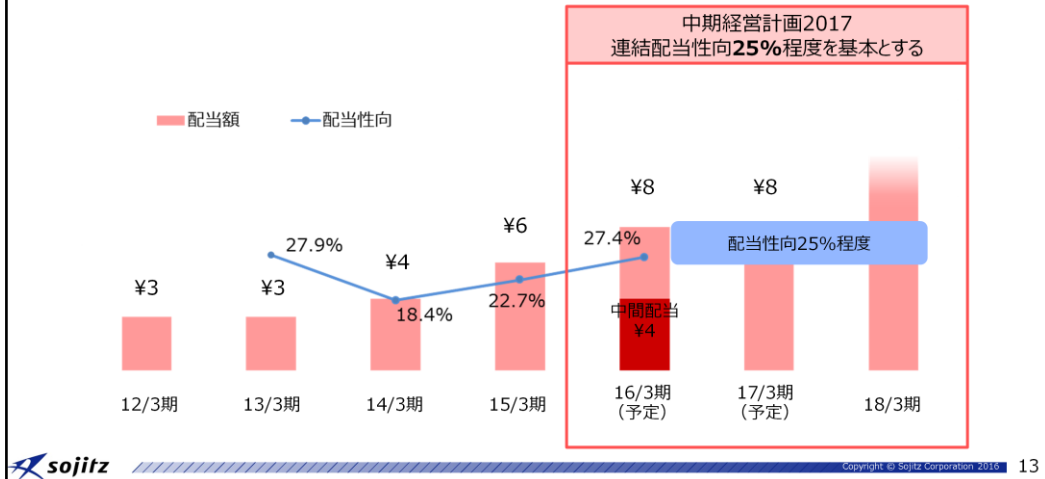


- キャッシュフロー推移を前中期経営計画から現中期経営計画期間まで累計でみた場合、累計フリー・キャッシュ・フローは黒字を維持。
- 引き続き、成長に向けた投資を実行していく考えに変更はないが、一定期間におけるフリー・キャッシュ・フローは黒字を維持していく見込み。

配当

配当に関する基本方針

安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを経営の重要課題のひとつと位置付けております



- 現中計期間においては配当性向25%程度を基本としている。
- 配当方針と今期業績見通しに基づき、総合的に勘案し、当期の1株当たり年間配当額は8円としたい。
- 引き続き、内部留保の拡充と有効活用により、優良資産を積み上げ、収益力を強化し、企業価値を向上させ、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えていく。



sojitz

New way, New value